

## 巻 頭 言



熊本市長 大西 一史

# 「世界に認められる『上質な生活都市』 を目指して

熊本地震の発生から3年4カ月余りが経過し、熊本市は現在、復旧・復興を着実に進めています。これまで、世界中の多くの方々から励ましのお言葉や心温まるご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、熊本市では、近年の世界情勢や日本そして本市を取り巻く様々な社会経済状況の変化に対応するとともに、熊本地震からの復興を後押しし、新たなまちづくりを進める上で必要な国際的取組を体系的に取りまとめた「熊本市国際戦略」を策定しています。

本戦略では、熊本市の目指す国際都市の姿を「世界に認められる『上質な生活都市』」と定め、その実現のために、人・モノ・情報及び交流が活発となるような「戦略的な海外展開の推進」と、多文化共生や人材育成など「地域の国際化の推進」を基本的取組の二本の柱に、様々な施策に取り組んでいます。

まず、「海外展開」については、友好姉妹都市等とのネットワークの活用や国際的枠組への参加を通じた、海外諸都市との政策連携を積極的に進めています。とりわけ、昨年10月に本市で開催した「第6回日仏自治体交流会議」では、日仏両国から過去最多の52自治体が参加され、公共交通や自治体連携などをテーマに優良事例の発表や活発な議論が交わされました。このような中から生まれる政策連携をもとに、本市の課題解決につなげ、まちの魅力を高めていきたいと考えています。

次に、「地域の国際化」については、近年熊本市は在住外国人が増加傾向にあることに加え、2019年4月に改正入管難民法が施行されたことを受け、今後ますます外国人労働者を含む在住外国人の増加が見込まれることから、生活者としての外国人支援をはじめ「多文化共生」の取組に特に力を入れています。

このような中、本市では、90年代の早い時期から国際交流会館を拠点として在住外国人への様々な支援を実施していますが、その取組を拡充し、行政手続や生活相談を一元的に多言語で対応する窓口を本年9月に開設します。また、熊本地震の経験を踏まえ、避難所の開設はもとより災害時多言語センターの設置など、災害時等における外国人支援のための機能強化をはじめとした、外国人受入れの環境整備を積極的に進めてまいります。

さらに、本市では、今秋以降ラグビーワールドカップと女子ハンドボール世界選手権大会が開催され、2020年にはアジア・太平洋水サミットの開催を予定しています。

本市としましては、これを機に、世界に向けてくまもとの復興と新しいまちの姿を示し、海外からの交流人口を増やすことで、地域の活力の向上と都市の成長につなげる「海外展開」と、その土台となる多様性や創造性を育む「地域の国際化」を進め、「世界に認められる『上質な生活都市』」を目指してまいります。